

## 令和4年度住宅火災における避難に関する検討会（第2回）

### 議事要旨

- 1 日時：令和4年11月29日（火） 10時00分から12時00分まで
- 2 場所：岡山市北消防署防災研修室
- 3 出席者
  - (1) 委員（敬称略、順不同）

松多委員（座長）、竹内委員（副座長）、水口委員、立古委員代理（服部）、高木委員代理（難波）、小西委員代理（都知木）、西山委員代理（太田）、上野委員代理（塩瀬）、上田委員
  - (2) オブザーバー  
株式会社白獅子、原田アナウンサー（日本放送協会）、岡崎准教授（岡山大学大学院）
  - (3) 事務局  
消防局予防課 加藤課長以下6名
- 4 配付資料
  - 資料1-1 検討会設置要綱
  - 資料1-2 委員等名簿
  - 資料2 予防広報発表会について
  - 資料3 VRを活用した避難トレーニングソフトの検証結果（中間発表）について
  - 資料4-1 避難のパンフレットのアンケート結果について
  - 資料4-2 避難のパンフレット（修正版）
  - 資料5 避難のガイドライン第1部（住民向け）について
  - 資料6 検討会3回目の予定について
  - 参考資料1 第1回議事要旨
- 5 議事内容（◎座長発言、○委員発言、●事務局発言、■オブザーバー発言）
  - (1) 予防広報発表会について
    - 事務局  
資料2により説明を行い、予防広報発表会を実施した。
  - (2) VRを活用した避難トレーニングソフトの検証結果（中間発表）について
    - 岡崎（オブザーバー）から資料3により説明を行った。
    - 事務局  
VRソフトのデモンストレーションを行った。
    - 地域包括ケア推進課（服部）

初めてVRソフトを拝見したが、ぜひやってみたいと思った。もう少しゲーム時間が長く体験できるのかと思うが、先ほどのデモンストレーションではあっという間に終わったように感じた。

■白獅子（オブザーバー）

実際に体験すると360度の空間を見渡すことができる。今回、選択方式にした理由としては、年齢に関係なく幅広く体験できるようにするためである。

◎松多座長

以前よりも、ソフトの精度が高くなり、実験結果も出ているので、今後は微修正をしながら完成に進めてもらえればと思う。

○竹内副座長

VRは、何台あるのか。

●事務局

リースでは6台となっている。

○竹内副座長

最後に、体験が終わった後のポイントの表示を大きくすることは可能か。

●事務局

修正を考えている。

○竹内副座長

精度が高くなってきている。あと、このソフトの展開として、タブレットなどは考えていないのか。

●事務局

現在は考えていない。

○竹内副座長

我々の職場では、VRを作っていく中で、やはりヘッドマウントディスプレイが苦手だという方も当然でてくる。そういった方には、タブレットを触ってもらって、体験してもらうことにしている。幅広く展開するにはよいツールだと思う。

◎松多座長

きちんと、効果検証を行っているのは素晴らしいことだと思う。今話のあったタブレットも含めて、できる範囲内で引き続き進めてもらいたい。

●事務局

承知した。

(3) 避難のパンフレットについて

●資料4-1により説明を行った。

\*第1回目の検討会でリーフレットとしていた表記を性質上パンフレットに変更している。

◎松多座長

まずは、このパンフレットの効果の部分である。戸別訪問を行ってもアンケートを返却していない人がいることは、新しい事業であることを考えると、仕方がないことなのかなと思う。各自が読み込んでいくのはなかなか難しいということで、まずは、消防職員や関係者が立ち会う対面の広報でこのパンフレットについて説明しながら活用していき、広く配布する場合は、診断テストなど、とりかかりやすい部分を中心に使っていくような形で、段階的に配布していく方法で進めたいとの提案があったがいかがか。

○高齢者福祉課（難波）

今後の広報の予定など、既にわかっていることなどがあれば教えていただきたい。

●事務局

今後、ロードマップという形で、第3回目の検討会までに体系化していこうと考えている。水面下では、教育委員会の協力で、小学校などで火災体験VRを使い火災からの避難の授業を行っている。また、地域包括ケア推進課とは、介護予防教室に通う高齢者へ、パンフレットを活用した火災からの避難の講座を取り入れていただけないか調整をしている。

◎松多座長

本日の広報発表会で、我々自身が初めて知ったことも多くあった。知らないことなどは、記憶に残るため、そういう説明とパンフレットを併せて使っていくと、より効果的なのかなと思う。この方向で進めていけばと思う。

●事務局

事務局から資料4-2により説明を行った。

◎松多座長

まずは、表紙であるが、折衷案として2種類のデザインが追加されている。事務局からは、1回目の検討会で提示された炎のデザインは少し怖い印象はあるが、インパクトがあり手に取られやすいというメリットがあるのでそのまま使用したいと提案があったがいかがか。まずは、目にとまってほしいということを最優先に考えた結果だとは思いますが。

○地域包括ケア推進課（服部）

高齢者の担当部局としての目線では、背景は折衷案の黄色よりは前回案の白がよいと感じた。はっきりしたコントラストの方が見やすいなどは感じた。ただ、前回の議事録を拝見すると、子どもが怖いと感じるという指摘もあったかと思う。

○障害福祉課（都知木）

細かい部分でいうと、表紙の3つの自分事部分のルビが消えていたのでこの点の修正ができればと思う。どうしても、怖いという人もいると思うが。

●事務局

それでは、メインとして、資料4-2の1枚目にある炎のデザインを使用して、サ

ブとして、折衷案を準備しておくのはいかがか。そうすると、折衷案は折衷案の2種類のうちどちらがよいか。

◎松多座長

多数決により、資料4-2の3枚目のデザインをサブとすることとする。

●事務局

承知した。

◎松多座長

続いて、マイタイムラインのデザインについてであるが、以前は縦方向に数字が並んでいたものを横に並べ、行動の表現をわかりやすくし、グループを整理している。わかりやすく工夫をした、新しいデザインで進めていただければと思う。

#### (4) 避難のガイドライン第1部（住民向け）について

●資料5により説明を行った。

◎松多座長

まずは、マイタイムラインの標準タイムについて、職員が実験をした時間を参考で記載しようと提案があるがいかがか。実際は、家の間取りなど、各家庭の事情で違いがでると思うので時間に誤差がでる。過信することで危険につながりという考え方もある。ただし、イメージがつくという点ではプラスになると思うが。ちなみに、どのくらいの標準時間に幅がでるかを算出することはできないのか。

●事務局

今考えているのは、この間取りで実験をしたら、このタイムでしたという示し方を考えており、幅となると、エビデンスが薄くなってしまう。

○生涯学習課（塩瀬）

高齢者であれば、このくらいという時間は提示できないか。

◎松多座長

高齢者の平均値などがあればよいが。

●事務局

高齢者が実験に加わればそのような実験が可能なのかなとは思いますが、現在は考えていない。

◎松多座長

すぐには難しいことは承知した。将来的に、VRの実験結果なども活用して、数値がでてくればよいが、あくまで将来的にということでもよいかと思う。少し配慮を加えながら標準タイムを入れる方向で進めてもらえばと思う。

●事務局

承知した。

◎松多座長

次はマイタイムラインの評価についてであるが、ある程度の評価がほしいという

ことだと思いがいかがか。評価方法についても意見があれば。私が思うこととしては、もちろん正解というものはあるのだと思うが、それぞれの事情でやってはいけないと思っけていても譲れない行動があると思う。そうすると、この評価で、絶対にやってはいけないとされると、マイタイムラインが作りづらくなる。わかっていながら、許容ができる、「可」のような尺度があってもよいかと思う。

○竹内副座長

マイタイムラインを作成するフローに評価を入れるということか。

●事務局

自分で作成したマイタイムラインを、自宅での避難訓練を行うことで、各家庭におけるマイタイムラインが完成するという部分を変更するわけではない。あくまで、アンケートの意見にもあったとおり、参考材料として、評価を提示し、1つのマイタイムラインの補足としての位置づけを考えている。

◎松多座長

自分で、評価表をみて、完結するのではなく、あくまで、こちら側のみが評価表を持っているという意味か。

●事務局

ガイドラインは、HPで公開する予定となっているため、誰でも評価表をみることは可能であるので、二次元コードなどをパンフレットに追記をし、参考として、提示することを考えている。

○高齢者福祉課（難波）

例えば高齢者の視点からいくと、自分で選んだマイタイムラインの選択についてどのように自分で振り返るかのつながりについて少し工夫がいると思う。

◎松多座長

どこに対応していくのかっていうところが、もう少しわかりやすくなるとういと思う。評価を作っても見なくなると意味をもたない。そういうイメージで評価を作成してもらいたい。

●事務局

承知した。

(5) 検討会3回目の予定について

●事務局

資料6により説明を行った。